

授業科目	*小児看護学演習					実務家教員担当科目	○				
単位	1.	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期				
担当教員	樋口 由貴子										
授業概要	小児看護学概論や小児看護方法論、小児分野の疾病学各論で学んだ知識を基に、健康問題をもった子どもや家族に対する看護援助について事例学習を通して看護展開する。また、安全で安楽な援助を提供するために必要な基本的看護技術についての知識を理解し技術を習得する。これらを実務家教員として臨床現場での経験をいかし、具体的な例を挙げながら解説する。										
授業形態	教科書・資料・視聴覚教材を用いた講義及び演習			授業方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション						
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>目標 1. 健康障害をもった子どもや家族に対する看護援助について看護展開し、看護計画を立案できる。(DP1-2, DP2-1, DP4-2)</p> <p>1) 事例の疾患が理解できる。</p> <p>2) 事例の全体像を捉えることができる。</p> <p>3) 事例の成長発達段階を踏まえた療養生活上の問題が抽出できる。</p> <p>4) 事例の子どもと家族への援助が考えられる。</p> <p>目標 2. 子どもの基本的援助技術を用いるための知識、技術、態度を習得できる。(DP1-2, DP2-1, DP4-2)</p> <p>目標 1 について、標準的な看護計画を立案できる。</p> <p>目標 2 について、知識、技術、態度を習得できる。</p>										
理想的レベル	<p>目標 1 について、紙上の事例を用いて看護過程を展開し、子どもの成長発達を踏まえ、子どもと家族を含めた個別性のある看護計画を立案し、説明できる。</p> <p>目標 2 について、子どもの基本的援助技術を用いるための知識、技術、態度を習得し、状況に応じて応用できる。</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合 (数値)					備考					
試験	20%										
小テスト	10%										
レポート	50%										
発表 (口頭、プレゼンテーション)	20%					講義中の態度・参加度についても評価します。					
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU21303J
学習課題 (予習・復習)										1回の学習目安 (時間)	
予習：これまでの学習を見直し、個人ワークを効果的に進められるように準備しておく。										1	

復習：疾患・症状・治療についてA4用紙1枚にまとめる。（第2回までに提出）	
授業計画	
第1回	<p>テーマ：科目のオリエンテーションおよび健康障害をもった子どもの事例検討1</p> <p>オリエンテーション後、事例紹介と今後の進め方について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子</p>
第2回	<p>テーマ：事例検討2</p> <p>提示された事例について、自己学習した知識からアセスメントに必要な情報収集を行い、患児の状態の把握をする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第3回	<p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術1</p> <p>主に安心・安全な環境を調整する技術について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子</p>
第4回	<p>テーマ：事例検討3</p> <p>患児のアセスメントを行い発表する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第5回	<p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術2</p> <p>主に酸素化、検査などの援助について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子</p>
第6回	<p>テーマ：事例検討4</p> <p>グループでアセスメントを共有し、アセスメントから健康問題を抽出する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第7回	<p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術3</p> <p>主に計測とバイタルサインの測定の方法について解説する。</p> <p>担当：藤本奈緒子</p>
第8回	<p>テーマ：小児看護技術演習1</p> <p>バイタルサインの測定、計測、ベッド操作方法など小児看護に必要な技術を、子どものモデル人形等を使って実施する。</p> <p>子どもにおける救急救命の看護について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第9回	<p>テーマ：小児看護技術演習2</p> <p>バイタルサインの測定、計測、ベッド操作方法など小児看護に必要な技術を、子どものモデル人形等を使って実施する。</p> <p>子どもにおける救急救命の看護について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第10回	<p>テーマ：事例検討5</p> <p>グループで健康問題を導き出し、計画を立案する。計画には必ずプレパレーションを入れる。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p>
第11回	<p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術4</p>

	主に排泄、栄養などの技術について解説する。 担当：樋口由貴子
第12回	テーマ：事例検討6 グループで事例の看護計画を立て、一部のプレパレーション場面を発表するために、準備・練習をする。 担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美
第13回	テーマ：事例検討7 グループで事例の看護計画を立て、一部のプレパレーション場面を発表するために、準備・練習をする。 担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美
第14回	テーマ：事例検討の発表1 看護計画の一部のプレパレーション場面を発表する。 発表グループは、教員が選出。その他のグループは、発表を聞きディスカッションする。 担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美
第15回	テーマ：事例検討の発表2 看護計画の一部のプレパレーション場面を発表する。 発表グループは、教員が選出。その他のグループは、発表を聞きディスカッションする。 まとめ 担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美
テキスト	中野綾美、ナーシンググラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護、メディカ出版、2023. 中野綾美、ナーシンググラフィカ 小児看護学2 小児看護技術、メディカ出版、2023.
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業中に適宜紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは採点後に返却、個人ワークはコメントをつけて返却します。
学生へのメッセージ・コメント	健康障害をもった子どもと家族を理解し看護過程を展開するには、既習の専門教育科目（看護を学ぶための基礎、看護実践の基本）を十分に理解しておく必要があります。振り返り学習しておいてください。 演習に関しては事前学習を十分に行い、準備を万全にして演習に臨んで下さい。また前半は個人ワークを中心に進めるため、事前学習や復習をしっかりとって授業に臨んでください。後半はグループワークを行う為、自分の意見や考えを準備し、グループワークに参加ください。この科目は、3年

後期から開講する小児看護学実習に向けた基礎的な学びの総括として位置付けている科目ですので、疑問や不明な点などは、積極的に声を出してしっかり参加して学習を深めていってください。課題提出についての詳細は、講義内で説明しますが、計画的に取り組むようにしてください。